

1	(1) 9 (面)	(2) 27 (cm³)	(3) 1230 (cm³)	(4) 3 (秒速) (m)	(5) 54 (時速) (km)
2	(1) ① 160 cm³	(1) ② 113.04 cm³	(1) ③ 485 cm³	(1) ④ 424 cm³	
	(2) ① 184 cm²	(2) ② 131.88 cm²	(2) ③ 384 cm²	(2) ④ 412 cm²	
3	(1) ① 81 (毎分) (m)	(1) ② 15 (分)	(1) ③ 32 (分)		
	(2) ① 200 m	(2) ② 600 m			
4	(1) 48 通り	(2) 210	(3) 42 通り	(4) 2079	
5	(1) 2100 m	(2) 毎分 140 m	(3) 14 分後		
6	(1) 6 cm	(2) 3 cm	(3) 649.98 cm²		

(配点)  
1・2・3(1) 各4点×16  
3(2)・4～6 各3点×12

1

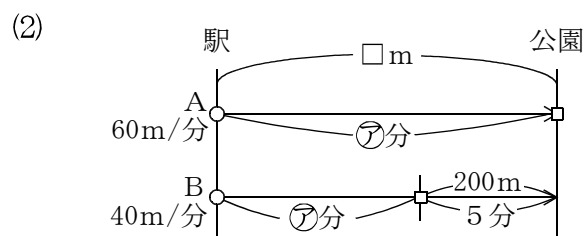
- (1)  $\underbrace{2}_{\text{底面}} + \underbrace{7}_{\text{側面}} = \underline{9}$  (面)  
 (2)  $3 \times 3 \times 3 = \underline{27}$  (cm<sup>3</sup>)  
 (3)  $1.23 \text{ L} \xrightarrow{\times 1000} \underline{1230}$  cm<sup>3</sup>  
 (4) 分速180m  $\xrightarrow{\div 60}$  秒速 3 m  
 (5) 秒速15m  $\xrightarrow{\times 3.6}$  時速 54 km

2

- (1)①  $5 \times 8 \times 4 = \underline{160}$  (cm<sup>3</sup>)  
 ②  $3 \times 3 \times \pi \times 4 = 36 \times \pi = \underline{113.04}$  (cm<sup>3</sup>)  
 ③  $8 - 5 = 3$  (cm) …取りのぞいた立方体の1辺  
 $8 \times 8 \times 8 - 3 \times 3 \times 3 = \underline{485}$  (cm<sup>3</sup>)  
 ④  $12 \times 9 \div 2 \times 8 - 2 \times 2 \times 2 = \underline{424}$  (cm<sup>3</sup>)  
 (2)①  $(5 \times 8 + 8 \times 4 + 4 \times 5) \times 2 = \underline{184}$  (cm<sup>2</sup>)  
 ②  $3 \times 3 \times \pi \times 2 + 3 \times 2 \times \pi \times 4$   
 $= 42 \times \pi = \underline{131.88}$  (cm<sup>2</sup>)  
 ③ 表面積は取りのぞく前と変わらない。  
 $8 \times 8 \times 6 = \underline{384}$  (cm<sup>2</sup>)  
 ④ 三角柱の表面積に立方体の面を、 $5 - 1 = 4$  (面) 加える。  
 $12 \times 9 \div 2 \times 2 + (12 + 9 + 15) \times 8 + 2 \times 2 \times 4$   
 $= \underline{412}$  (cm<sup>2</sup>)

3

- (1)①  $2025 \div 25 = \underline{81}$  (m/分)  
 ②  $300 \times 12 = 3600$  (m)  $3600 \div 240 = \underline{15}$  (分)  
 ③  $1800 \div 24 = 75$  (m/分)  $75 \times 2 = 150$  (m/分)  
 $3000 - 1800 = 1200$  (m)  $24 + 1200 \div 150 = \underline{32}$  (分)



- ①  $40 \times 5 = \underline{200}$  (m)  
 ② ○～□でAさんとBさんが進んだきよりの差は、①より200mなので、 $\text{○} = 200 \div (60 - 40) = 10$  (分)  
 $60 \times 10 = \underline{600}$  (m)

4

- (1)  $4 \times 4 \times 3 = \underline{48}$  (通り)  
 (2)  $1 \square \square \rightarrow 4 \times 3 = 12$  (通り)  
 $20\square \rightarrow 3$  通り  
 ここまでで計15通り。よって、16番目は 210。  
 (3) 作ることができる偶数の一の位は0か2。  
 $\square\square\square 0 \rightarrow 4 \times 3 \times 2 = 24$  (通り)  
 $\square\square\square 2 \rightarrow 3 \times 3 \times 2 = 18$  (通り)  
 よって、 $24 + 18 = \underline{42}$  (通り)  
 (4) 2025に「近い」整数なので2025より小さい整数と大きい整数を調べる。  
 近い順に、2019, 2017, 2071, 1972, 2079。

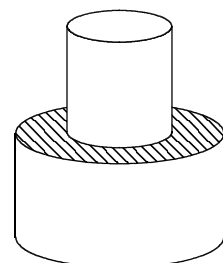
5

- (1)  $60 \times 35 = \underline{2100}$  (m)  
 (2) 次郎くんは太郎くんの5分後に出発し、太郎くんと同時に到着するので、次郎くんが動いた時間は、 $35 - 5 = 30$  (分)  
 次郎くんはA B間を往復しているので、動いたきよりは、 $2100 \times 2 = 4200$  (m)  
 よって次郎くんの速さは、 $4200 \div 30 = \underline{140}$  (m/分)  
 (3) 次郎くんが出発してから太郎くんと出会うまでの時間に2人が動いたきよりの和は、 $2100 - 60 \times 5 = 1800$  (m)  
 よって、 $1800 \div (60 + 140) + 5 = \underline{14}$  (分後)

6

- (1) 大きい円柱の底面の半径を□cmとすると、  
 $565.2 \div 3.14 = 180$  より、入っている水の体積は、  
 $\square \times \square \times \pi \times 5 = 180 \times \pi$  (cm<sup>3</sup>)  
 $\square \times \square = 36$   $\square = \underline{6}$  (cm)  
 (2) (1)より、大きい円柱の体積は、  
 $6 \times 6 \times \pi \times 8 = 288 \times \pi$  (cm<sup>3</sup>)  
 満水時に入っている水の体積は、  
 $565.2 \times 2 = 180 \times \pi \times 2 = 360 \times \pi$  (cm<sup>3</sup>)  
 よって、小さい円柱の底面の半径を△cmとすると、  
 $\triangle \times \triangle \times \pi \times 8 + 288 \times \pi = 360 \times \pi$  (cm<sup>3</sup>)  
 $\triangle \times \triangle \times 8 = 72$   
 $\triangle \times \triangle = 9$   $\triangle = \underline{3}$  (cm)

- (3) 満水時に水にふれている部分は、大きい円柱の下底面と側面、小さい円柱の側面、右図の斜線部分の計4面。斜線部分は大きい円柱の底面から小さい円柱の底面をひいたものなので、  
 $6 \times 6 \times \pi + 6 \times 2 \times \pi \times 8 + 3 \times 2 \times \pi \times 8$   
 $+ 6 \times 6 \times \pi - 3 \times 3 \times \pi = 207 \times \pi = \underline{649.98}$  (cm<sup>2</sup>)



配点 : 1・2・3(1) 各4点×16  
 3(2)・4～6 各3点×12